

リンゴの葉をお茶に



「湖北海棠」というリンゴの葉だけを使ったお茶「りんご葉の茶」

弘前の会社 開発

リンゴの持つ健康作用を研究し、商品開発に取り組んでいる弘前市の会社「医果同源性機能研究所」が、リンゴの葉だけで作ったお茶「りんご葉の茶」を開発した。老化防止などの効果が期待されるという。同社によると、リンゴの葉だけで作るお茶を商品化したのは全国で初めて。

【藤田晴雄】

「老化防止」効果に着目

「りんご葉の茶」は、所長を務める元弘前大農学生命科学部准教授の城田安幸さん(71)らが構想から約10年かけて開発。直径1センチほどの赤い実をつける中国原産のリンゴの品種「湖北海棠」の葉を使い、商品化した。

同社は、自生する「湖北海棠」が日本で絶滅しているため、県産業技術センターりんご研究所(黒石市)が保存している木から枝を譲り受け、2012年に大鰐町の山あいにある有機JAS認証を受けた農園で接ぎ木。177本まで増やし、農薬や化学肥料を一切使わずに栽培している。収穫した葉は天日干しして乾燥した後、甘くてほのかなリンゴの香りを引き出すように高温で焙煎した。

同社研究開発部の城田文香さん(38)によると、リンゴの葉にはポリフェノールの一種「フロリジン」が多く含まれており、老化防止のほか、血糖値の上昇を抑えるなどの効果が期待できるという。20、21日には同市のデパート「弘前中三」で発表会が開かれ、試飲した弘前市の建山光生さん(54)は「飲みやすい。無農薬なので体にも良さそう」。

78歳の女性は「健康に良いと思うので、飲み続けてみたい」とさっそく買い求めている。

城田さんは「青森のリンゴ産業の活性化につながる一つの提案と

なればと考え開発した。青森は全国一の短命県と言われているので、このお茶を飲んで健康になってほしい」と話した。

価格は、リンゴの葉の形のパッケージに入った5袋入りが756円、1袋入り162円、15袋入り1890円。弘前中三をはじめ、連携して商品化に取り組んだ同市の自然食品店「油屋福六」や青森市などの観光物産施設などでも販売している。

問い合わせは、医果同源性機能研究所(0172・35・5931)。

MAINICHI

新毎日

12月25日(水)

2019年(令和元年)